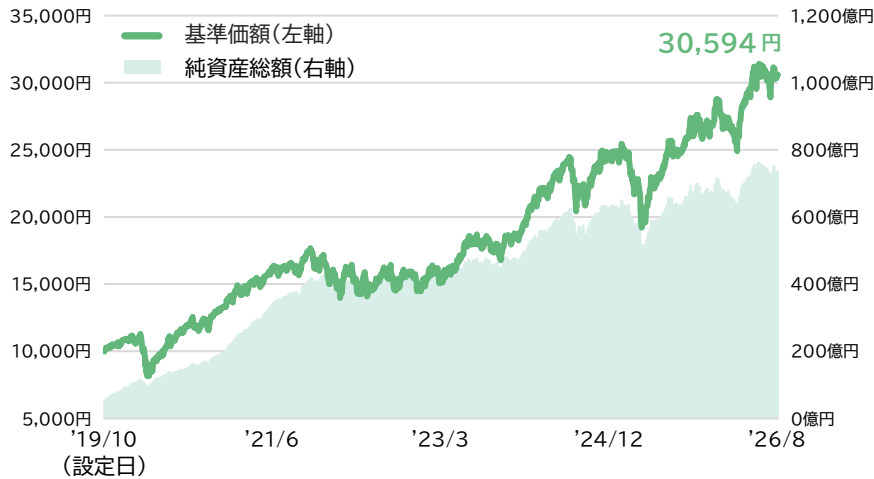


運用実績

■ 基準価額等の推移



■ 運用成績

ひふみワールド	
1ヵ月	3.19%
3ヵ月	-0.67%
6ヵ月	12.48%
1年	22.44%
3年	66.49%
5年	85.33%
10年	-
設定来	205.94%

■ ひふみワールドの運用状況

基準価額	30,594円
純資産総額	736.10億円
受益権総口数	24,060,872,472口

■ ひふみワールド投資信託財産の構成

ひふみワールドマザーファンド	99.83%
現金等	0.17%
合計	100.00%

■ 分配の推移

(1万口当たり、税引前)

第7期	2026年2月	0円
第6期	2025年2月	0円
第5期	2024年2月	0円
第4期	2023年2月	0円
第3期	2022年2月	0円
設定来合計		0円

※当レポートにおいて基準価額とは「ひふみワールド」の一万口あたりの値段のことで、また信託報酬控除後の値です。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入銘柄比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

※「ひふみワールド」は、ひふみワールドマザーファンド(親投資信託)を通じて実質的に株式へ投資しています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主要な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は「株式・投資証券」「為替」や「基準価額変動額」と合わない場合があります。「株式・投資証券」のうち、アメリカには米ドル建て、欧州にはユーロ、イギリス・ポンド、スウェーデン・クローナ建て、アジア・オセアニアには香港ドル建て等の株式・投資証券が含まれます。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。

■ 基準価額の変動要因

基準価額変動額(月次) +945円

[内訳]

株式・投資証券	+1,027円
アメリカ	+790円
欧州	-28円
アジア・オセアニア	+265円
その他	+0円
為替	-40円
米ドル	-81円
ユーロ	-2円
香港ドル	-
その他	+43円
信託報酬・その他	-42円

資産配分比率などの状況

■ ひふみワールドマザーファンドの状況

純資産総額	3,541.89億円
組み入れ銘柄数	113銘柄

■ 資産配分比率

海外株式	96.96%
海外投資証券	0.71%
現金等	2.33%
合計	100.00%

■ 時価総額別比率

10兆円以上	70.03%
1兆円以上10兆円未満	24.67%
3,000億円以上1兆円未満	2.30%
3,000億円未満	0.66%

■ 組み入れ上位10カ国 比率

1	アメリカ	69.44%
2	イギリス	5.73%
3	台湾	5.23%
4	イタリア	3.17%
5	オランダ	2.80%
6	ドイツ	2.57%
7	フランス	1.43%
8	アイルランド	1.20%
9	アルゼンチン	1.13%
10	デンマーク	0.83%

■ 組み入れ上位10業種 比率

1	半導体・半導体製造装置	14.80%
2	資本財	10.20%
3	ソフトウェア・サービス	9.22%
4	金融サービス	8.73%
5	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	7.40%
6	メディア・娯楽	7.09%
7	銀行	6.97%
8	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.90%
9	エネルギー	5.05%
10	自動車・自動車部品	4.50%

■ 組み入れ上位10通貨 比率

1	米ドル	78.89%
2	ユーロ	7.40%
3	台湾ドル	5.23%
4	イギリス・ポンド	4.18%
5	デンマーク・クローネ	0.83%
6	オーストラリア・ドル	0.69%
7	スイス・フラン	0.44%
8	-	-
9	-	-
10	-	-

※「資産配分比率」「時価総額別比率」「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10通貨比率」はマザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。「海外投資証券」はREIT(不動産投資信託)等です。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「時価総額別比率」は基準日時点のBloombergの情報を基に作成しております。

※「組み入れ上位10カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」は株式における上位業種を表示し、原則としてGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に準じて表示しております。

銘柄紹介(基準日時点の組入比率1~10位)

No	銘柄名 (銘柄名カナ)	国	通貨	業種	組入比率
1	MICROSOFT CORPORATION (マイクロソフト)	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.90%
	「地球上のすべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする」というミッションを掲げる世界最大のソフトウェア会社。GitHub CopilotやAzure OpenAI Serviceなど多くのAIソリューションサービスを持つ。				
2	FERRARI NV (フェラーリ)	イタリア	米ドル	自動車・自動車部品	2.85%
	高級スポーツカーを設計・製造。高単価・少量生産のニッチラグジュアリーブランド。個別の顧客ニーズに合わせたカスタマイズ製造が特徴。相次ぐ値上げにもかかわらず、超富裕層のニーズは旺盛。				
3	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFACTURING CO LTD (台湾・セミコンダクター・マニファクチャリング)	台湾	台湾ドル	半導体・半導体製造装置	2.77%
	台湾の世界最大手半導体受託製造企業。受託市場の過半、AI向けでは約9割のシェアを誇る。2nmや3nmなどの超微細加工と、チップを統合する先端パッケージ技術(CoWoS)に強みがあり、NVIDIAなどのAI進化を支える唯一無二の存在。				
4	BANK OF AMERICA CORPORATION (バンク・オブ・アメリカ)	アメリカ	米ドル	銀行	2.25%
	米国の大手金融機関のひとつ。コンシューマーバンキング、投資銀行、ウェルスマネジメント、グローバル・マーケットの4部門を柱に幅広い金融サービスを展開。全米トップクラスの個人預金フランチャイズを持つ。				
5	ADVANCED MICRO DEVICES, INC (アドバンスト・マイクロ・デバイセズ)	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	2.21%
	コンピューター用プロセッサメーカー。現在CPUについては技術面とブランド面でインテルに匹敵、もしくはそれ以上の評価を得ており、堅調に市場シェア拡大による成長を続けている。GPUについても生成AIでの利用拡大により堅調な成長が見られる。				
6	BJ'S WHOLESALE CLUB HOLDINGS, INC (ビージェーズ・ホールセール・クラブ・ホールディングス)	アメリカ	米ドル	生活必需品流通・小売り	2.05%
	米国の東海岸を中心に店舗展開する会員制ホールセールクラブ。コストコ、ウォルマート傘下のサムズクラブに次ぐ第3位。Eコマース時代でもホールセールクラブへの需要は堅調と考えられる他、店舗拡大による成長余地が大きい。				
7	NETFLIX, INC (ネットフリックス)	アメリカ	米ドル	メディア・娯楽	2.03%
	オンラインを介してテレビ番組、映画、アニメ、ドキュメンタリーなどを月額課金で提供する映像配信サービスプラットフォーム。世界各国で独自コンテンツの制作にも力を入れており、その規模や品質は年々拡大している。				
8	NVIDIA CORPORATION (エヌビディア)	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	1.97%
	画像処理半導体(GPU)の設計、開発、販売を行なう米国企業。膨大な演算処理が要求される人工知能(AI)の開発が近年活発化しており、並列処理が得意なGPUは世界的に需要が旺盛。エコシステム(CUDA)の提供を通じて、AI・データセンター市場で圧倒的なシェアを誇っている。				
9	VISA INC (ビザ)	アメリカ	米ドル	金融サービス	1.90%
	クレジットカードでおなじみの世界的な決済テクノロジー企業。VISAのテクノロジーにより、世界中の様々な人、企業、政府があらゆる場所で決済することが可能に。				
10	ELI LILLY AND COMPANY (イーライリリー)	アメリカ	米ドル	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	1.86%
	心代謝系、がん、免疫、神経疾患を中心に医薬品の開発、製造、販売を行なう大手製薬会社。GIP/GLP-1受容体作動薬の「マンジャロ」や「ゼップバウンド」が急成長している。				

※国は原則として発行国を表示しています。なお、国には地域が含まれます。

※業種は原則としてGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に準じて表示しています。

※組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

銘柄紹介(基準日時点の組入比率11~30位)

No	銘柄名 (銘柄名カナ)	国	通貨	業種	組入比率
11	INTEL CORPORATION (インテル)	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	1.82%
12	APPLE INC (アップル)	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.73%
13	TESLA, INC (テスラ)	アメリカ	米ドル	自動車・自動車部品	1.65%
14	ALPHABET INC (アルファベット)	アメリカ	米ドル	メディア・娯楽	1.55%
15	AMAZON.COM, INC (アマゾン)	アメリカ	米ドル	一般消費財・サービス流通・小売り	1.50%
16	SNOWFLAKE INC (スノーフレイク)	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.48%
17	THE WALT DISNEY COMPANY (ウォルト・ディズニー・カンパニー)	アメリカ	米ドル	メディア・娯楽	1.47%
18	CLOUDFLARE INC - CLASS A (クラウドフレア)	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.35%
19	CARNIVAL CORP LTD (カーニバル)	アメリカ	米ドル	消費者サービス	1.34%
20	CATERPILLAR INC (キャタピラー)	アメリカ	米ドル	資本財	1.30%
21	KINDER MORGAN, INC (キンダー・モルガン)	アメリカ	米ドル	エネルギー	1.28%
22	APPLIED MATERIALS, INC (アプライドマテリアルズ)	アメリカ	米ドル	半導体・半導体製造装置	1.25%
23	MONGODB, INC (モンゴDB)	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.21%
24	AERCAP HOLDINGS NV (エアキャップ・ホールディングス)	アイルランド	米ドル	資本財	1.20%
25	PEPSICO, INC (ペプシコ)	アメリカ	米ドル	食品・飲料・タバコ	1.15%
26	YPF S.A.-SPONSORED-ADR (YPF)	アルゼンチン	米ドル	エネルギー	1.13%
27	ING GROEP NV (INGグループ)	オランダ	ユーロ	銀行	1.12%
28	THE GOLDMAN SACHS GROUP, INC (ゴールドマン・サックス)	アメリカ	米ドル	金融サービス	1.07%
29	UBER TECHNOLOGIES INC (ウーバー・テクノロジーズ)	アメリカ	米ドル	運輸	1.07%
30	WESTERN DIGITAL CORPORATION (ウエスタンデジタル)	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	1.00%

※国は原則として発行国を表示しています。なお、国には地域が含まれます。

※業種は原則としてGICS(世界産業分類基準)の産業グループ分類に準じて表示しています。

※組入比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

ご参考:市場動向

■ MSCI ACWI ex JAPAN(配当込み)(米ドルベース)の推移



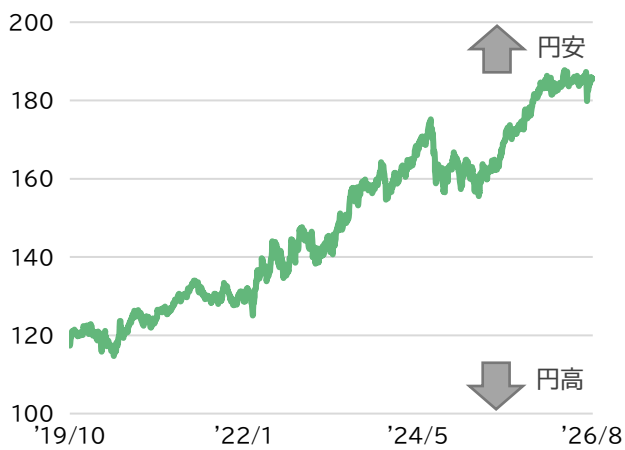
当月騰落率 +4.27%

■ 米ドル／円の推移



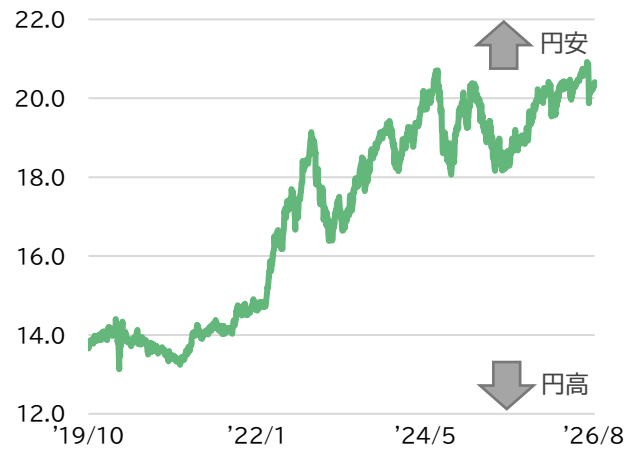
当月騰落率 -0.44%

■ ユーロ／円の推移



当月騰落率 +0.21%

■ 香港ドル／円の推移



当月騰落率 -0.39%

※MSCI ACWI ex JAPAN(配当込み)はBloombergのデータを基に作成しております。なお、MSCI ACWI ex JAPANの当月騰落率は、基準価額への反映を考慮して、月末前営業日の指数値を基に算出しております。

※MSCI ACWI ex JAPANは当ファンドのベンチマーク(運用する際に目標とする基準)ではありませんが、参考として記載しています。なお、MSCI ACWI ex JAPANは配当込みで、米ドルベースです。MSCI ACWI ex JAPANは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国、新興国の株式を対象として算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

※為替レートは一般社団法人資産運用業協会が発表する仲値(TTM)です。

ELI LILLY AND COMPANY



※組入銘柄のご紹介は、個別銘柄を推奨するものではありません。当レポート発行時点での組入れをお約束するものではありません。

※株価などのグラフについては、Bloombergの情報に基づきレオス・キャピタルワークスが作成しています。

※過去の実績は、将来の収益をお約束するものではありません。

※写真はイメージです。

Eli Lilly and Company(イーライリリー)は、糖尿病や肥満症をはじめ、がん、自己免疫疾患、神経疾患などの領域で医薬品を開発する米国の大手製薬会社です。

現在は、GIP/GLP-1受容体作動薬である、糖尿病治療薬「マンジャロ」と肥満症治療薬「ゼップバウンド」が大きく成長しています。既存の注射剤に加え、錠剤で服用できる経口薬や、より高い効果を目指す次世代薬の開発を進め、患者の状態やニーズに応じた治療の選択肢を増やすことで、急拡大する肥満症・糖尿病市場でのリードをさらに広げようとしています。

同時に、そこで生み出される収益を、がん、自己免疫疾患、神経疾患など将来の成長分野へ積極的に再投資しています。自社での研究開発に加えて、優れた技術を持つバイオ企業の買収も活用し、新しい治療法や新薬候補を取り込んでいます。競合の大手製薬企業の多くは、目先の特許切れを補うための買収に専念しています。一方、GIP/GLP-1薬が成長している同社は、将来を見据えて長期的な買収戦略をとっています。足元の成長を次の研究開発へ繋げ、肥満症に続く複数の成長の柱を育てていけることが、同社の大きな強みだと考えています。

運用責任者よりお客様へ

2026年8月の米国株式市場は、NYダウは5ヵ月連続上昇、S&P500、ナスダックは3ヵ月ぶりに上昇し、7月に2008年10月以来の下落率を記録したフィラデルフィア半導体株指数(SOX指数)も反発し2.0%上昇しました。AIブームの中核を担うNVIDIAの5~7月期決算では、AI開発競争が激化し半導体需要も旺盛な状況が続くなかで市場予想を上回り、2028年度の売上高見通しについては約70%増を見込んでいるという経営陣の前向きなコメントを受け、AIバブル懸念が和らいだことも好感されました。テクノロジー株の中では、AIの台頭による置き換えが危惧されていたソフトウェア企業が良好な決算を発表したことで、株価は堅調に推移しました。

2026年8月の投資行動については、メルカドリブレやメタ・プラットフォームズなど設備投資の回収期間長期化の懸念が高まった銘柄を売却した一方、エスティ・ローダーやデッカーズなど業績が堅調ながらもAI相場の脇に追いやられバリュエーションが極めて魅力的な水準に低下していた銘柄の新規購入、買い増しなどを行ないました。セクターの動きとしては、確信度の低い銘柄の全売却を行なった資本財のウェイトを引き下げた一方、AIによる価値破壊の懸念はあるもののバリュエーションの低下が行き過ぎと判断したソフトウェアの他、決済などの金融サービスのウェイトを引き上げました。

PER(株価収益率)は概ね、利益の期待成長率と、その利益の安定性と相関が高いと言われています。つまり、利益の期待成長率が高く、その確度が高い、つまり下振れるリスクが限定的と思われる銘柄ほどPERが高く付与される傾向があります。同じ成長率ならば、下振れリスクが限定的な銘柄のほうがPERが高く付与されます。つまり、シクリカル銘柄(景気敏感銘柄)よりも安定成長銘柄のほうがPERが高い状況が多く見られます。しかし、足下の市場を見てみますと、成長率が高く、アナリストの利益予想が切り上がっているにもかかわらず、どんどんPERが下がっている、あるいは成長率にふさわしくないほどに低位にとどまっている銘柄が昨今多く散見されます。今のAIなどの市場のテーマ、空気に合っていない、というのが主な理由です。つまり、無視されているのです。英語ではdislocation(歪み)と呼ぶにふさわしい状況でしょう。普通の低バリュエーション銘柄には経営不振など「安い理由がある」ことがほとんどです。ただ、現在は業績絶好調なのに割安な銘柄が多く見られます。私たちはこの状況はいつか修正されると考えます。まだそのような銘柄をポートフォリオに多く組み込むには時期尚早ですが、いつでも出動できるようにモニタリングを強化しています。

(9月1日)

※個別銘柄を推奨するものではありません。
当資料のコメント等は、発行時点での当社の見解を示すものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きや結果を保証するものではありません。ならびに、当社が運用する投資信託への組み入れ等をお約束するものではありません。

※組入比率など運用についての記述は、すべてひふみワールドマザーファンドに関するご説明です。

※当資料では「ひふみワールドマザーファンド」のことを「ひふみワールド」と略する場合があります。

※各指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。



代表取締役社長
最高投資責任者
ひふみワールド運用責任者
湯浅 光裕

米国中間選挙控え重要イベント目白押し

金利上昇下の世界株高、景気・業績の拡大継続がカギ



運用本部
経済調査室長
三宅一弘

世界株は、主要国株価指数が景気・業績の拡大を原動力に最高値圏で推移しています。主要国の10年国債金利は上昇基調を辿っており、世界的株高の帰趨は景気・業績の拡大が金利高に優るのかにかかっていると推察されます。特にAI&半導体ブームの中で、AI関連投資の拡大、収益増加の好循環が続くのが注目されます(⇒好循環継続見通し)。世界経済は、先行指標のグローバルPMI(購買担当者景気指数)製造業が2025年8月以降、景気の分かれ目の50を連続して上回るなど堅調が続いています。主要国のEPS増益率は上方修正基調が続いており、米S&P500が26年+33%、TOPIXが同+22%、STOXX欧州600が同+19%と好調持続です(FactSetアナリストコンセンサス予想)。

金融政策面では9月中旬が再注目です。ECB理事会(9月9~10日開催)はラガルド総裁はじめ多くの理事がインフレ抑制重視を明示しており、市場は利上げを有力視しています。FOMC(15~16日)は従来、利上げと据置見通しがほぼ五分五分でしたが、ウォーシュFRB議長講演(8月28日ジャクソンホール会合)のタカ派的発言などから利上げ寄りの見通しに変化しています。中間選挙(11月3日)を控えてトランプ政権から利上げ反対プレッシャーなどもあり、難しい判断を迫られそうですが、最終的にはデータ重視で、11日発表の8月のCPI統計が重視されそうです(前月比+0.2%かそれ以下ならば据置、それを大きく上回れば利上げの可能性が高まると推察されます)。日銀は、日米の円買い協調介入と政策の整合性や、米国政府の意向などを受けて利上げが有力視されています。日米政府は過剰な円安の是正のために円買い協調介入(7月末)を行ないましたが、ドル円レートが再び160円/ドルの円安に進行、協調介入第二弾の思惑が台頭しています。日銀の利上げと利上げペースの加速化などが9月会合で示されるのか、過剰円安の是正に向けての動きがいくつか出てきそうですし、ドル円レートが動意づく可能性があります。

イラン戦争は、米国の対イラン制裁強化(イランと取引する第三国の銀行・企業までドル決済網から締め出す二次制裁の本格化)が打ち出されました。イラン原油を一手に輸入する中国に対して、中国大手銀行に二次制裁が発動されるのが注目されます。イラン戦争は両国の軍事衝突が再び本格化しつつあり、これらを受けて原油市況は上昇に転じています。ホルムズ海峡の段階的正常化で油価軟化、インフレ抑制、金利低下シナリオは、上記の一連の動きを受けて後退しました。米・イラン間の緊張が高まる場合には原油高、インフレ懸念、金利上昇を通じて株価の下押し要因になりそうです。

日本の政治面では、政府・与党が食料品の消費税率を8%⇒1%に引き下げを柱とする税制改正大綱を9月半ば頃にまとめる見通しです。その後、自民党の役員人事や内閣改造が行なわれ、9月末頃からの臨時国会に臨むとみられます。食料品の消費税減税は2年間限定の時限措置で財源(年間約5兆円、2年で約10兆円)を税収上ブレ分、税外収入、補助金などの縮小で手当し、赤字国債に頼らない方針です。7月に急落した高市内閣支持率は底入れ・改善の動きを示しており、日本株にとっては朗報と評価されます。

世界株は、①景気・企業業績の堅調と、②油価上昇やインフレ懸念、金利上昇の強弱要因が綱引きする、高値もみ合いの構図になっています。イラン戦争が勃発した2月末以降、米10年国債利回りを筆頭に主要国長期金利は上昇基調を辿っています。中東(ホルムズ海峡)情勢が悪化するのか、改善に転じるのか、世界の株価や金利動向を左右しそうです。中間選挙(11月3日)が近づく中で、現状のベースシナリオはトランプ政権が一段の悪化を回避し、米国株を筆頭に世界株は総じて高値もみ合いを予想します。当面の上ブレ、下ブレは中東情勢の改善、悪化が主因になりそうです。

(9月2日)

運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今月のトピック

最近モノの値段や気温など、いろいろなものが上がっています。皆さんがいま注目している「上がっている」「上がったと感じている」ものは何ですか？



Yuasa Mitsuhiro

湯浅 光裕

代表取締役社長
最高投資責任者
シニア・ファンドマネー
ジャー

Setlog。Vlogを作るアプリです。何気ない数秒を記録していく感じで、なんかこれすげえ～上がってんな～と思ったもののひとつです。



Ito Tsubasa

伊藤 翼

アナリスト

アーティストのライブチケットの倍率です。ファンクラブに入ってファンクラブ先行で応募しても平気で外れます。



Oshiro Shintaro

大城 真太郎

シニア・ファンドマネー
ジャー

一次情報の価値。



Ohara Kenji

大原 健司

シニア・ファンドマネー
ジャー

世の中の不確実性が高まっているので、人々の意識や行動に変化が出ていると思います。



Kubo Tomohiko

久保 智彦

シニア・アナリスト

積読のままだ本が積み上がっています。



Zhou Huan

周 歆

シニア・アナリスト

米国出張に行くたびにアメリカの物価はやはり高いなと感じています。

※個別銘柄を推奨するものではありません。当資料のコメント等は、発行時点での当社の見解を示すものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きや結果を保証するものではありません。ならびに、当社が運用する投資信託への組み入れ等をお約束するものではありません。

※後述の「当資料のご留意点」を必ずご覧ください。

運用メンバーからのメッセージ



Sugino Ryosuke
杉野 僚祐
アナリスト

僕の血圧。



Senoh Masanao
妹尾 昌直
運用本部長
シニア・アナリスト

個人投資家含め市場参加者の裾野や知識。Xを見ていても、よく調べているなあと思うものが多々ある印象です。負けてられないと気合が入ります。



Takahashi Ryo
高橋 亮
運用副本部長
海外株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

首都圏の大学の学生に占める、首都圏出身者の比率です。かつては首都圏や関西圏に進学者を多く送り込んだ地元のトップ高の進学先で、地元国立大学の重要性が高まっているのを聞き、ただの地元志向ではなく、私たちの親世代より、地方の今の親たちに余裕がない可能性があるのでしょうか。



Naito Makoto
内藤 誠
国内株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

持続的な利益成長が可能な日本企業の数が増えていると感じます。毎日取材をしていると日本企業の成長意欲が増えています。



Nagashima Yutaro
永島 優太郎
アナリスト

LLMトークン消費量の増加ペースには驚かされます。



Namiki Koji
並木 浩二
小型株式戦略部長
シニア・ファンドマネージャー

時間の経つスピードは、加速度的に上がっているように感じます。2026年もあっという間に3分の2が経過してしまいました。



Hashimoto Yuichi
橋本 裕一
マーケットエコノミスト
兼ファンドマネージャー

日本人の投資リテラシー。私も負けないように発信の質を上げていきたいです。

運用メンバーからのメッセージ



Hong Minho
洪 民鎬
アナリスト

ポピュリズムと分極化、民族主義の機運が高まっていることを感じます。歴史的にみるとレジームの機能が落ちていく時に起きる現象で、第二次世界大戦後のレジームが80年も経ったのであまり違和感はないですが、もし起こり得るグレートリセットの引き金が何になるか・次のヘゲモニーを握るのが誰になるか・個人としてどういう戦略を取れば恩恵を受けるか、というところは考えてみると面白いと思っています。



Matsumoto Ryoga
松本 凌佳
シニア・ファンドマネージャー

コンビニスイーツが高くなったなあと感じています。甘いものが食べたいときには、価格帯が一回り安いアイスクリームコーナーに流れていくようになりました。



Mizuse Kiminobu
水瀬 公脩
アナリスト

サウナに行く頻度。時間があればつつい行ってしまいます。



Miyake Kazuhiro
三宅 一弘
経済調査室長
シニア・マーケットエコノミスト

市場目線では半導体スポット価格、賃金(春闘)、金利などに注目しています。



Watanabe Shota
渡邊 庄太
シニア・ファンドマネージャー

豪雨の頻度と水害時の水位です。想定を大きく上回るような豪雨が各地で頻発しており、住宅などの立地や浸水対策などを見直す必要がありそうに思われます。

セミナーなどのお知らせ

公式ウェブサイトの「[セミナー・イベント](#)」ページで詳細のご確認やお申込みができます。
このほかのセミナー日程は開催が決まり次第、随時更新してまいります。

月次運用報告会 ひふみアカデミー

ファンドの運用についてご報告するとともに、今後の経済や株式相場などの見通しについてご説明いたします。投資信託の運用状況について知りたいという方はもちろん、経済環境や株式市場について勉強したい、この先の経済見通しを知りたい方におすめのセミナーです。

ひふみアカデミー 2026年8月度【リアル開催】 (ひふみ投信、ひふみワールド、ひふみクロスオーバーpro、ひふみポリシードライブpro)*	9月10日(木) 19:00～20:00
ひふみアカデミー 2026年8月度【オンデマンド配信】 (ひふみらいと、ひふみマイクロスコープpro)	9月中を予定しております。
ひふみアカデミー 2026年9月度【リアル開催】 (ひふみ投信、ひふみワールド、ひふみクロスオーバーpro、ひふみポリシードライブpro)*	10月13日(火) 19:00～20:00
ひふみアカデミー 2026年9月度【オンデマンド配信】 (ひふみらいと、ひふみマイクロスコープpro)	10月中を予定しております。

* 当社セミナールームで開催いたします。観覧には事前申し込みが必要です。当日の運用報告等の内容については動画収録を行ない、後日[ひふみ公式チャンネル](#)にて公開いたします。

※開催日程および開催方式は作成日時点のものです。今後予告なく変更されることがあります。

ひふみのおすすめのコンテンツをご紹介します

暑さが少しやわらいできましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
今月はこちらのコンテンツをご紹介します！

ひふみラボnote



子どもの教育費に関係する資産形成として注目されている、2027年開始予定の「こどもNISA」を中心に、教育資金の作り方を考えていきます。

[【記事】子どもにかかる「今のお金」と「未来のお金」\(後編\)こどもNISAはどう使う？](#)

「ひふみ」公式YouTubeチャンネル



海外株式戦略部アナリストの洪民鎬が、キャピタル・サイクルで読む航空業界の投資戦略をテーマに解説します。

[【動画】キャピタル・サイクルで読む航空業界の投資戦略【アナリスト調査最前線】](#)

ひふみ公式LINEアカウント

お客様に向けてLINEでの情報提供をしています。

LINEお友だち登録はこちら▶

またはLINEにて「ひふみ」で検索



ひふみ

ひふみ公式アプリ「てのひらひふみ」

「てのひらひふみ」では、資産推移をひと目で分かりやすく、いつでもどこでも手もとから確認することができます。

アプリダウンロードはこちら▶



※後述の「当資料のご留意点」を必ずご覧ください。

ひふみワールドの特色

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

■ 投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- ・ 「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて株式など値動きのある証券(外国の証券には為替リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様(受益者)に帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金と異なります。
- 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられ、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じる場合があります。
カントリーリスク (エマージング市場 に関わるリスク)	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場(新興国市場)への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

■ 当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- セミナー等で金融商品の説明等をすることや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等をすることがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行ないません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身のご判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

■ お申込メモ

商品分類	追加型投信／海外／株式
当初設定日	2019年10月8日
信託期間	無期限
決算日	毎年2月15日(休業日の場合、翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行ないます。分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。
購入価額	ご購入のお申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)
購入代金	申込期間における毎営業日に、「販売会社」の指定する銀行口座へお振込みください。
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額(1万口当たり)
換金代金	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。
購入・換金申込 受付不可日	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。
申込締切時間	購入・換金ともに、原則として毎営業日の午後3時30分までに受け付けたものを当日のお申込みとします。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA(少額投資非課税制度)の適用対象となります。 「ひふみワールド」は、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」および「つみたて投資枠(特定累積投資勘定)」の対象です。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。

■ お客様にご負担いただく費用

- ◇直接ご負担いただく費用：ありません。
申込手数料・換金(解約)手数料・信託財産留保額は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。
- ◇間接的にご負担いただく費用：次のとおりです。

運用管理費用 (信託報酬)	信託財産の日々の純資産総額に対して 年率1.628%(税抜年率1.480%) を乗じて得た額。 信託報酬とは、投資信託の運用・管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。 運用管理費用の配分			
	支払先	委託会社	販売会社	受託会社
	配分	年率0.803% (税抜年率0.730%)	年率0.803% (税抜年率0.730%)	年率0.022% (税抜年率0.020%)
その他費用・ 手数料	組入有効証券の売買の際に発生する売買委託手数料(それにかかる消費税等)、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用(監査費用)およびそれにかかる消費税等、受託会社の立て替えた立替金の利息など。 監査費用は日々計算されて毎計算期末または信託終了のとき、その他の費用等は都度ファンドから支払われます。 これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。			

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

■ ファンドの関係法人

委託会社:レオス・キャピタルワークス株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号
加入協会 一般社団法人資産運用業協会
受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社:レオス・キャピタルワークス株式会社

■ 当ファンドについてのお問い合わせ先



RHEOS CAPITAL WORKS

レオス・キャピタルワークス株式会社
※2026年12月1日付でSBIレオス・キャピタルワークス株式会社へ社名を変更します。
コミュニケーション・センター
電話:03-6266-0123 メール:cc@rheos.jp
受付時間:営業日の9時~17時
ウェブサイト:https://www.rheos.jp/